

選択科	産婦人科特化
研修受け入れ科	産科婦人科
研修プログラムの概要・特徴	<p>1. 概要 このプログラムは将来産婦人科医を目指す研修医のために特化したプログラムである。卒後臨床研修に求められる到達目標を満足しつつ、産婦人科の診療および産婦人科医となるにあたりとくに有用な選択必修科目を研修する。特化コースとして産婦人科研修を行う定員は原則として2名とする。</p> <p>2. 特徴 熊本大学病院産科婦人科は、婦人科 38 床、産科 21 床で、小児科と共同で運用している総合周産期母子医療センター内に 15 床の新生児集中治療室 (NICU)、6 床の胎児母体集中治療室 (MFICU) を開設している。年間 400 例以上の婦人科手術を行い、ここ数年の婦人科がん手術件数は九州の全医療機関中上位 3 位以内にある。また年間約 400 例の分娩管理を行い、毎年 100 例以上の周産期救急搬送に対応している。さらに各種出生前診断や遺伝カウンセリングを行っている。本院は日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本生殖医学会、日本周産期・新生児医学会、日本人類遺伝学会の各専門医制度の研修施設認定を受けている。プログラムの年間スケジュールは別紙記載の通りで、熊本大学医学部附属病院群の卒後臨床プログラムに準じており、当病院群における研修の流れに沿って無理のない研修を行うことができる。</p>
研修の目標	<p>(一般目標) 女性特有の疾患に対するプライマリケアならびに救急医療に必要な基本的診療能力に加えて、産婦人科を専攻することを前提としたより専門的な周産期医学領域、生殖医学領域、および腫瘍医学的領域における高度かつ専門的な内容が研修できる。</p> <p>(行動目標)</p> <p>A 産婦人科において経験すべき診察法・検査・手技</p> <p>(1) 基本的産婦人科診療能力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問診および病歴の記載</li> <li>2) 産婦人科診察法：視診（一般的、腔鏡診）触診（外診、双合診、直腸診）、新生児の診察</li> </ol> <p>(2) 基本的な産婦人科臨床検査の実施と評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠の診断：基礎体温、内分泌検査、超音波断層法</li> <li>2) 生殖内分泌領域の検査</li> <li>3) 感染症の検査</li> <li>4) 婦人科細胞診・病理組織診</li> <li>5) 骨盤臓器の超音波断層法、CT、MRI 検査</li> <li>6) 胎児モニタリング</li> </ol> <p>(3) 基本的治療法の理解と薬物治療の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 薬物の作用、副作用、相互作用、催奇形性および胎児毒性の理解と、適切な薬剤の選択</li> <li>2) 注射の施行</li> </ol> <p>B 産婦人科において経験すべき症状・病態・疾患</p> <p>(1) 頻度の高い症状</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 腹痛、腰痛</li> </ol> <p>(2) 緊急を要する症状・病態</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 急性腹症      2) 流・早産、正期産</li> </ol>

	<p>(3) 経験が求められる疾患</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 産科関係：妊娠・分娩・産褥の生理の理解、妊娠の診断、正常分娩第1,2期の管理、正常頭位分娩の児娩出前後の管理、正常新生児の管理、腹式帝王切開術の経験、産科出血に対する応急処置</li> <li>2) 婦人科関係：骨盤内解剖の理解、間脳-下垂体-卵巣系の理解、婦人科良性腫瘍の診断・治療計画の立案ならびに手術への参加、婦人科悪性腫瘍の診断・治療計画の理解ならびに手術の経験、婦人科性器感染症の診断と治療計画の立案、不妊・内分泌疾患患者の診断と治療計画の立案</li> <li>3) その他：産婦人科診療に関わる倫理的問題の理解、母体保護法関連法規の理解、家族計画の理解</li> </ol> <p>参考：産婦人科において経験が求められる疾患・病態</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、産褥）</li> <li>(2) 女性生殖器疾患およびその関連疾患（月経異常、不正性器出血、更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍）</li> </ol>
<p>研修の方略 (スケジュール等)</p>	<p>婦人科、産科領域のそれぞれを専門とする2名の指導医をおき、研修状況を統括する。各研修医はそれぞれ1名の指導助手と組となって婦人科、産科の別なく患者を受け持ち、研修を行う。週間スケジュールは産婦人科研修プログラムに同じである。</p> <p>研修のスケジュールは研修医の意向を加味して決定する。1年目はある程度の内科研修の後、産婦人科の研修を開始するのが望ましいが、ただちに産婦人科の研修を開始することもできる。1年目の後半で到達目標に加えてより専門的な周産期医学領域、生殖医学領域、および腫瘍医学的領域における診断・検査・治療の立案、評価が研修できる。2年目の研修では、産婦人科専門医取得を想定したより高度かつ専門的な内容を研修する。選択科目に制限はないが、小児科としてNICUを2ヶ月間研修するのが望ましい。2年目の夏までには日本産科婦人科学会に入会し学術活動を開始する。2年目には1ないし2ヶ月の予定で協力医療機関の産婦人科・母子センターでの研修も可能である。</p> <p>○医局内の研究会</p> <p>研究カンファレンス（基礎および臨床。月1-2回水曜日朝）</p> <p>○参加可能な産科婦人科関連の院内研究会</p> <p>Tumor board：不定期</p> <p>放射線科産婦人科合同カンファレンス：不定期</p> <p>熊本内分泌疾患症例検討会：1, 4, 7, 10月第3水曜日</p> <p>熊本遺伝カウンセリング研究会：隔月第2水曜日</p> <p>○参加可能な産科婦人科関連の学会・研究会（県内）</p> <p>熊本産科婦人科学会学術講演会：年3回</p> <p>熊本女性医学講座：年3回</p> <p>熊本産婦人科医会定例総会・学術講演会：年2回</p> <p>熊本県がん検診従事者認定協議会子宮がん検診従事者講習会：年1回</p> <p>熊本婦人科悪性腫瘍研究会：年2回</p> <p>熊本周産期懇話会：2, 5, 8, 11月第3水曜日</p> <p>○参加可能な産科婦人科関連の学会・研究会（全国）</p> <p>日本産科婦人科学会学術講演会：年1回</p> <p>その他サブスペシャリティ領域の学会多数。</p>
<p>研修の評価</p>	<p>産婦人科研修プログラム（必修分野）に同じ。</p>
<p>研修実施責任者</p>	<p>産科・婦人科長：片渕 秀隆</p>
<p>研修指導責任者 (指導医)</p>	<p>(正) 大場 隆 (副) 本原 剛志</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>なし</p>